

Ⅱ アンケート調査の結果

第1章 アンケート調査の調査項目

【調査名】誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

市民（18歳以上）

大項目	問番号	設問
1 基本属性	問1	性別
	問2	年齢
	問3	居住地域（福祉圏域）
	問4	居住年数（通算）
	問5	住居形態
	問6	同居の家族構成
	問7	職業
2 日頃のコミュニケーション	問8	近所付き合いの程度
	問9	近所付き合いの必要性（場面ごと）
	問10	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）
	問11	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）
3 市民同士の支え合い、地域活動	問12	①手助けしてほしいこと，②手助けできること
	問13	助け合いを後押しする取組
	問14	地域活動・ボランティア活動 ①取組状況，②今後の取組意向
	問15	地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件
4 暮らしのこと	問16	経済的に困った経験の有無
	付問	その原因（困っている，困ったことがある方）
	問17	外出の状況（本人）
	付問1	ひきこもりの期間（本人）
	付問2	ひきこもりの理由（本人）
	問18	外出の状況（家族）
	付問1	ひきこもりの期間（家族）
	付問2	ひきこもりの理由（家族）
	問19	複合的な課題を抱えた世帯の認知状況
	問20	困ったときの相談相手（人・機関）
	問21	どこに相談したらいいかわからない生活上の困りごとの有無
	付問	困りごとの内容（あると答えた方）
	問22	地域の中での不安や課題
5 市民の権利を守る取組	問23	市民の権利を守る制度・事業の認知度（成年後見等）
	問24	判断能力が低下した際の各制度の利用意向
	付問	各制度を利用しない理由（制度を利用しない，わからない方）
6 誰もが暮らしやすいまちづくり	問25	災害時の不安や心配ごと
	問26	地域のつながりに対する考え方
	問27	市内のバリアフリー化の状況
	問28	心のバリアフリーの普及に必要な取組
	問29	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度
	問30	更生支援（再犯防止）関係者の認知度
	問31	更生支援（再犯防止）に必要な取組
	問32	今後力を入れるべき保健福祉施策（サービス）
	問33	地域福祉への意見・提案＜自由記述＞

【調査名】高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

高齢者（65 歳以上）

大項目	問番号	設問
1 基本属性	問1	性別
	問2	年齢
	問3	居住地域（福祉圏域）
	問4	居住年数（通算）
	問5	住居形態
	問6	同居の家族構成
	問7	介護支援の有無
2 日頃のコミュニケーション	問8	近所付き合いの程度
	問9	近所付き合いの必要性（場面ごと）
	問10	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）
	問11	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）
3 市民同士の支え合い，地域活動	問12	①手助けしてほしいこと，②手助けできること
	問13	①手助けした経験，②手助けしてもらった経験
	問14	助け合いを後押しする取組
	問15	地域活動・ボランティア活動 ①取組状況，②今後の取組意向
	問16	地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件
4 就労	問17	就労状況
	付問	職業に就いた経緯（会社等で働いている人）
	問18	就業理由
	問19	高齢者の就労に必要な要件
5 健康増進，権利擁護の取組	問20	認知症予防，フレイル予防の取組状況
	問21	人生のエンディングに向けた事柄 ①認知度，②活用意向
	問22	認知症対策の取組
	問23	市民の権利を守る制度・事業の認知度（成年後見等）
	問24	判断能力が低下した際の各制度の利用意向
	付問	各制度を利用しない理由（制度を利用しない，わからない方）
6 暮らしのこと	問25	外出の目的
	付問	外出の移動手段
	問26	コロナ禍後の暮らしへの影響
	問27	外出の状況（本人）
	付問1	ひきこもりの期間（本人）
	付問2	ひきこもりの理由（本人）
	問28	外出の状況（家族）
	付問1	ひきこもりの期間（家族）
	付問2	ひきこもりの理由（家族）
	問29	困ったときの相談相手（人・機関）
	問30	どこに相談したらいいかわからない困りごとの内容
	問31	サードプレイス（居場所）の有無
	問32	サードプレイス（居場所）の必要性，希望
7 誰もが暮らしやすいまちづくり	問33	地域の暮らしの満足度
	問34	高齢者の生活を守る取組や相談窓口等の認知度
	問35	市内のバリアフリー化の状況
	問36	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度
	問37	今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策（サービス）
	問38	介護者支援策への意向
	問39	地域福祉への意見・提案＜自由記述＞

【調査名】障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

障害者（18歳以上）

大項目	問番号	設問
1 基本属性	問1	回答者
	問2	性別
	問3	年齢
	問4	居住地域（福祉圏域）
	問5	住居形態
	問6	同居の家族構成
	問7	①所持する手帳・受給者証，②等級
	問8	病気や障害の種類
2 相談支援	問9	困ったときの相談相手（人・機関）
	問10	医療機関の受診で困ること
	問11	今後の居住形態の意向
3 日頃のコミュニケーション	問12	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）
	問13	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）
4 災害時の対策	問14	避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況
	問15	緊急時の情報入手先
5 暮らしのこと	問16	現在の就労状況
	問17	障害や病気を周囲に伝えたか
	問18	今後の就労意向
	問19	就労の支援策
	問20	生活上の活動機会の有無
	問21	スポーツ・運動をする頻度
	問22	スポーツ・運動をする希望場所
	問23	スポーツ・運動の実施の為に必要な支援
	問24	外出の状況（本人）
	付問1	ひきこもりの期間（本人）
	付問2	ひきこもりの理由（本人）
	問25	外出の状況（家族）
	付問1	ひきこもりの期間（家族）
	付問2	ひきこもりの理由（家族）
6 誰もが暮らしやすいまちづくり	問26	住みやすさの評価
	問27	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度
	問28	外出の移動手段
	問29	市内のバリアフリー化の状況
	問30	心のバリアフリーの普及に必要な取組
	問31	暮らしや外出時の差別，偏見，配慮の有無
	問32	①ヘルプカードの所持，②ヘルプマークの所持
	問33	ヘルプカードやヘルプマークの効果
7 デジタルの活用	問34	市の保健福祉情報の入手先
	問35	スマートフォン等の利用状況
	問36	デジタル活用へのアイデア＜自由記述＞
8 調布市の障害者福祉施策	問37	相談窓口・制度の認知度
	問38	今後力を入れるべき障害者福祉施策（サービス）
	問39	地域福祉への意見・提案＜自由記述＞
9 介助者のこと	問40	（家族介助者のみ）介助者の年齢
	問41	（家族介助者のみ）介助の不安
	問42	（家族介助者のみ）介護者支援策への意向

【調査名】子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート
障害児（18歳未満）の保護者

大項目	問番号	設問
1 基本属性	問1	保護者（回答者）とあて名本人（子ども）との関係
	問2	性別（保護者）
	問3	年齢（保護者）
	問4	居住地域（福祉圏域）（保護者）
	問5	健康状態（保護者）
2 あて名のお子さんのこと	問6	あて名本人の就学状況
	問7	あて名本人の性別
	問8	①所持する手帳・受給者証，②等級
	問9	病気や障害の種類
	問10	学校以外の時間の活動場所（就学後のお子さん）
	問11	放課後活動に求めること（就学後のお子さん）
	問12	生活上の活動機会の有無
	問13	スポーツ・運動をする頻度
	問14	子どもの日常生活に関する不安
	問15	医療機関の受診で困ること
	問16	子どもの進学先の希望
	問17	子どもの将来の働き方の希望
	問18	子どもが就労する上で必要なこと
	問19	今後の居住形態の意向
3 相談支援	問20	困ったときの相談相手（人・機関）
	問21	介助の不安
	問22	本人の介助できょうだいの不安や困りごと
	問23	介護者（保護者）支援策への意向
4 日頃のコミュニケーション	問24	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）
	問25	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）
5 災害時の対策	問26	避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況
	問27	緊急時の情報入手先
6 誰もが暮らしやすいまちづくり	問28	住みやすさの評価
	問29	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度
	問30	外出の移動手段
	問31	市内のバリアフリー化の状況
	問32	心のバリアフリーの普及に必要な取組
	問33	暮らしや外出時の差別，偏見，配慮の有無
	問34	①ヘルプカードの所持，②ヘルプマークの所持
	問35	ヘルプカードやヘルプマークの効果
7 デジタルの活用	問36	市の保健福祉情報の入手先
	問37	デジタル活用へのアイデア＜自由記述＞
8 調布市の障害者福祉施策	問38	「i（あい）-ファイル」の認知度
	問39	相談窓口・制度の認知度
	問40	今後力を入れるべき障害児福祉施策（サービス）
	問41	地域福祉への意見・提案＜自由記述＞

【各調査に共通する主なテーマと設問】

- 今後の地域福祉の主なテーマについて、複数の調査間で設問を設定している。
- 以下が主なテーマと共通する設問である。

テーマ	設問	市民調査	高齢者調査	障害者調査	障害児保護者調査
日頃のコミュニケーション	近所付き合いの程度	問 8	問 8	—	—
	近所付き合いの必要性（場面ごと）	問 9	問 9	—	—
	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）	問 10	問 10	問 12	問 24
	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）	問 11	問 11	問 13	問 25
市民同士の支え合い，地域活動	①手助けしてほしいこと	問 12	問 12	—	—
	②手助けできること	問 13	問 14	—	—
	助け合いを後押しする取組	問 13	問 14	—	—
	地域活動・ボランティア活動	問 14	問 15	—	—
相談支援	①取組状況，②今後の取組意向	問 14	問 15	—	—
	地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件	問 15	問 16	—	—
	困ったときの相談相手（人・機関）	問 20	問 29	問 9	問 20
	医療機関の受診で困ること	—	—	問 10	問 15
活動機会，スポーツ	今後の居住形態の意向	—	—	問 11	問 19
	生活上の活動機会の有無	—	—	問 20	問 12
	スポーツ・運動をする頻度	—	—	問 21	問 13
	外出の移動手段	—	問 25 付問	問 28	問 30
外出，ひきこもりの状況	外出の状況（本人）	問 17	問 27	問 24	—
	ひきこもりの期間（本人）	付問 1	付問 1	付問 1	—
	ひきこもりの理由（本人）	付問 2	付問 2	付問 2	—
	外出の状況（家族）	問 18	問 28	問 25	—
	ひきこもりの期間（家族）	付問 1	付問 1	付問 1	—
	ひきこもりの理由（家族）	付問 2	付問 2	付問 2	—
	市民の権利を守る取組	問 23	問 23	—	—
誰もが暮らしやすいまちづくり	判断能力が低下した際の各制度の利用意向	問 24	問 24	—	—
	各制度を利用しない理由	付問	付問	—	—
	住みやすさの評価	—	—	問 26	問 28
	市内のバリアフリー化の状況	問 27	問 35	問 29	問 31
	心のバリアフリーの普及に必要な取組	問 28	—	問 30	問 32
	暮らしや外出時の差別，偏見，配慮の有無	—	—	問 31	問 33
	①ヘルプカードの所持	—	—	問 32	問 34
災害時の対策	②ヘルプマークの所持	—	—	問 33	問 35
	ヘルプカードやヘルプマークの効果	—	—	問 33	問 35
	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度	問 29	問 36	問 27	問 29
	避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況	—	—	問 14	問 26
デジタルの活用	緊急時の情報入手先	—	—	問 15	問 27
	市の保健福祉情報の入手先	—	—	問 34	問 36
市の障害者福祉施策	相談窓口・制度の認知度	—	—	問 37	問 39
	今後力を入れるべき障害者福祉施策（サービス）	—	—	問 38	問 40
介助者のこと	介助の不安	—	—	問 41	問 21
	介護者支援策への意向	—	問 38	問 42	問 23